



南小だより さわやかなあいさつ 明るい教室 きれいな学校

学校教育目標 「心豊かにたくましく生きる児童の育成」

平成30年5月1日

かしこい子 やさしい子 たくましい子

第2号

今月の生活目標 「学校のきまりとまもろう」

川越市立高階南小学校

1ヶ月を過ぎて思うこと

校長 新井 啓太郎

平成30年度も、早くも1ヶ月が過ぎました。何かと心配だった1年生も給食が始まり、通常日課での学校生活ができるようになりました。毎朝登校の様子を正門で見ていると、元気にあいさつができる子が多いようです。

そんな中で、何人か気になる児童もいます。優しいお姉さんに肩を抱かれながら不安そうに登校する子、毎朝お母さんと登校する子、登校班で登校できない子等々……。学校と家庭で協力しながら、子どもたちが元気に登校できるように努めていますが、保護者の皆様は、心配されていることと思います。

児童文化研究家の吉岡たすくさんは、「やる気を育てる」という本のなかで、こんなことを言っています。

「ひとと同じでなくてもいいということ、まず頭に入れておいてほしい。例えば、ウメもモモもサクラもキクも、みんな花です。咲くのは同じ。しかし、時期がそれぞれ違います。ところが隣の子がサクラだもんだから、『あの子が咲いているのに、あなたはどのようにして咲けないの』とせきたてる。そして励ましという水もやらない。これではキクは咲かずに枯れてしまう。」と

親は、どうしても他人の子どもと比較してしまいがちです（私もそうでした）。我が子のよさは、親しか知らないんだという自信をもってほしいものです。失敗をしない子がいたら、それは異常な子どもであるとかんがえた方がよいでしょう。子どもたち一人一人が、みんなちがったきれいな花を咲かせることができるよう指導してまいります。保護者の皆様、地域の皆様にもご協力をよろしくお願いいたします。

学校安全支援ボランティアの皆さんの活動について

学校安全支援ボランティアのみなさんは、1年を通じて毎日、雨の日も風の日も雪の日も、子どもたちが安全に登下校できるように、協力してくれています。大きな荷物を抱えて歩いている子を心配して、荷物を持ってくれたり、転んで泣いている子の手を引いてくれたりと、子どもたちのことを本当に優しく見守ってくれています。

本校の学校安全支援ボランティア活動は、平成13年度から、学校と地域との連携によって始まりました。はじめは地域の方が、子どもたちの登下校や学校生活を心配して、ボランティアを申し出てくださったそうです。そして今年で17年目、オレンジの帽子とベストを着用して、34名のボランティアの方々が、今日も子どもたちの登下校の安全を見守ってくれています。学校では、そんなボランティアの皆さんに、感謝の気持ちを込めて「さわやかなあいさつ」ができる子どもたちの育成に努めてまいります。ご家庭でも、ご協力をお願いします。



気持ちのいい一日は～さわやかなあいさつ～から！

4月の学校だよりでもお話ししましたが、本校では、～さわやかなあいさつ 明るい教室 きれいな学校～を合言葉に、さわやかな気持ちのいいあいさつができる子、仲良く勉強したり働いたりできる子、黙々と掃除する子の育成に努めています。今月はその中の、～さわやかなあいさつ～についてお話しします。



学校では、この～さわやかなあいさつ～を、豊かな人間関係に繋がる明るく気持ちのいいあいさつと捉え、様々な授業や行事の中で、あいさつすることの意義や大切さについて指導してまいります。ご家庭でも、朝の家族との元気なあいさつを大切にしてくださいと思っています。朝、家族と元気なあいさつができる子は、必ず外でもあいさつができる子になります。地域の皆様も、子どもたちへのあいさつや言葉かけをお願いします。学校と家庭・地域が一体となって、～さわやかなあいさつ～のできる高階南小学校の子どもたちを育てていけたらと考えております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。